

中層曳網の実用化試験・・・(第1報)

猿 谷 倫

1 目 的

本県の底曳網漁船は沖合底曳船27隻(30~40トン)小型底曳船26隻(5~15トン)あり、主にカレイ、ヒラメ、メヌケ、キチジ、イカ類等を漁獲しているが、中層曳きの技術はまだ活用されていないので、ヤリイカ、スルメイカなど生活層が浮沈するものを対象に中層曳網を導入し、漁場開発と漁獲増を目的にこの試験を行なった。

試験に供した漁具は、水産片漁船研究室葉室技官の設計によるもので、すでに試験船「ときわ」(2625トン 200PS)により基礎的な実験は終了している(昭和35年度茨水試験報告)。

3 試験の方法

- (1) 試験期日 昭和42年8月26日
- (2) 漁 場 久慈沖水深60~70m線海域
- (3) 試 船 住吉丸(14,99トン, 100馬力低速)
久慈町漁協所属小型底曳船
- (4) 乗 組 員 船長 以下 6名
- (5) 調 査 員 猿谷 倫, 荻部 信二
- (6) 供給漁具

(イ) 網地(アミラン)

(ロ) 浮子方, 沈子方

浮子方 ア

バ ガラス玉

8寸 3ケ

ポリ玉 3寸

22ケ

(ハ) イキ(網口

開口板)

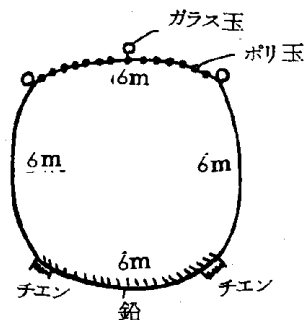
70cm×140cm

2枚

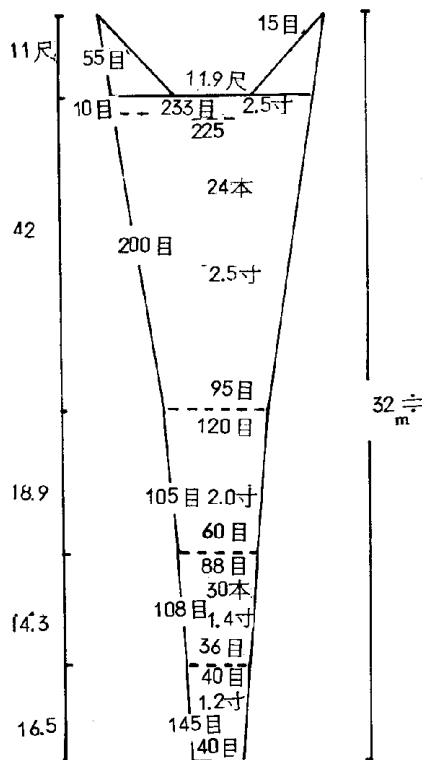
展開力 100

-150Kg

第2図



第1図



沈降力 60-70 Kg

構造 木 鉄

(一) 曳 索

径4分ワイヤー 200m×2

9分マニラロープ 15m×2

(二) Sweep line (手網)

径5分ナイロンロープ 60m×2

(三) 計測器

網深さ計 2ヶ 傾角度板 2ヶ

3 結 果

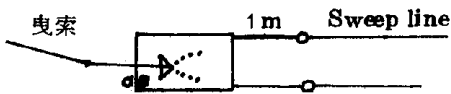
8月26日 8h-30m 住吉丸は日立港を出港, 10h-10mより2回にわたって試験をおこない, 13h-00m 終了帰港した。結果は下記の通りである。

第1回目: 10h-15m 投網, 機関回転300, 11h-00m 揚網,

測 角

10h-15m 狭角	}	右 舷 15°	傾 角	右 舷 20°
		左 舷 5°		左 舷 15° 曳索 115m
10h-15m 狭角	}	右 舷 3°-4°	傾 角	右 舷 15°
		左 舷 4°		左 舷 15°

第 3 図



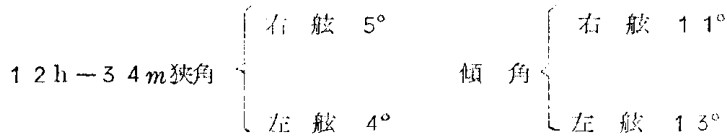
第 4 図



第2回目: 12h-20m 投網, 機関回転300, 13h-00m 揚網,

測 角

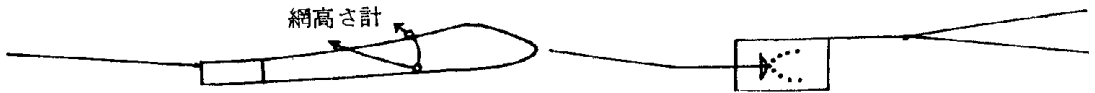
12h-25m 狭角	}	右 舷 10°-9°	傾 角	右 舷 14°
		左 舷 -1°		左 舷 12° 曳索 115m



第5図

第6図

Sweep line 装着の変更



以上2回におわたりの試験から次のことが明らかになった。

- ① 曳網中の船速は機関回転300で約2.5~3.0ノットであった。
- ② 曳網力に比して網地の規模が大きい。
- ③ Otter Board の展開力が少ない。
- ④ Sweep line が長すぎる。

2回目にはSweep line の接着を改良したが特別な変化はみられなかった。

この結果から住吉丸の場合は供試漁具では漁獲能力が極度に悪く(網口の横の開も2mキなど)実用化の対象にならないことがわかった(図7漁具展開図参照)。今後は小型底曳船に適性な漁具を設計製作し、試験をおこなう計画である。

3319 舟具展開図

